

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号 18 学校名 岐阜県立岐阜工業高等学校 全日制

<p>学校教育目標 (教育方針)</p>	<p>1 確かな学力・健やかな体・豊かな心の調和のとれた人材の育成 2 自立力・共生力・自己実現力のある人材の育成 3 高い志とグローバルな視野をもって夢に挑戦できる人材の育成 4 地域社会の発展に貢献できる人材の育成</p>	
<p>3つの方針 (スクールポリシー)</p>	<p>どんな生徒を 育てたいか 【GP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心の調和」の取れた生徒 ・「自立力」「共生力」「自己実現力」のある生徒 ・高い志とグローバルな視野を持って夢に挑戦できる生徒 ・地域社会の発展に貢献できる生徒
	<p>生徒をどう 育てるか 【CP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の確実な定着と主体的な学習態度の育成、授業規律の徹底 ・確かな技術や技能と生きる力を育む、特色ある工業教育の推進 ・信頼と愛情を基盤とした共感的な生徒理解に徹する積極的な指導の充実 ・将来の自己実現を目指すキャリア教育（進路指導）の推進 ・規範意識の高揚を図った部活動の振興
	<p>どんな生徒を 待っているか 【AP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりに興味を持ち、他者と協議しながら主体的に学び、「ものづくり日本一」を目指す生徒 ・資格取得に興味を持ち、多様な学びに主体的に取り組み、自らの可能性に挑戦し、「資格取得日本一」を目指す生徒 ・部活動に興味を持ち、部活動と学習を両立し、3年間意欲的に取り組み、「部活動日本一」を目指す生徒
<p>学校の抱える課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ進学の可能性を広げていきたい。 ・成績不良者への学習支援により、成績不良者を減少させたい。 	
<p>教育指導の重点</p>	<p>領域・分野</p>	<p>今年度の具体的な重点目標</p>
	<p>学習指導</p>	<p>①私たちは、学科主任会を中心にした各専門学科の支援体制を整えます。 ②私たちは、教務部学習指導係を核とした各教科の学習支援体制を確立します。（考査・長期休暇前後の学習会の実施と個人面談の実施） ③私たちは、資格取得について年間計画に基づく計画的な指導をします。 (朝や放課後、土曜日を有効的に活用した資格取得対策指導や合格を目指す指導内容の研究・研修)</p>
	<p>進路指導</p>	<p>①私たちは、ものづくり競技への支援体制を整備し、ものづくりを通して工業人として望ましい資質と意識を身につけさせることに努めます。 ②私たちは、求人動向や大学についての情報等、適切な進路情報を提供するとともに、生徒の進路意識を育むために進路ガイダンスや進路相談の充実に努めます。 ③私たちは、生徒企業見学、卒業生と語る会、進路講話等を実施し、キャリア教育の充実に努めます。 ④私たちは、保護者向け説明会や企業見学会を実施するなど、進路実現に向けた家庭との連携を図ります。</p>
	<p>特別活動</p>	<p>①私たちは、挨拶運動、地域清掃活動、ボランティアへの積極的な参加を通し、社会の一員としての自覚を深めさせるよう努めます。 ②私たちは、生徒による出前授業や中学生の進路実現に向けての支援を通し、自らの行動に責任を持つとともに、主体的に判断できる態度や積極的に自己を生かす能力の育成に努めます。 ③私たちは、部活動（運動部も文化部も）の年間計画に基づく計画的な指導をします。 ④私たちは、姉妹校提携している外国の学校との相互交流訪問や海外展開している日本企業での研修を行い、技術交流やものづくりを通し、国際化に対応できる生徒の育成に努めます。</p>
	<p>その他</p>	<p>①私たちは、地域産業を担うテクノロジストの育成に努めます。 ②私たちは、地域を愛するテクノロジストの育成に努めます。 ③私たちは、地域を守るテクノロジストの育成に努めます。</p>

年度目標				年度末評価(自己評価)				
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画 での位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D	
学習指導	生徒が主体的に授業に取り組むことができる授業の展開	8	施策Ⅱ-8	① 資格等の取得者数、 ジュニアマイスター受賞者 (80名以上の受賞を目指す) ② 成績不良者の減少 (成績不良者ゼロを目指す) ③ 学校評価 (8割以上の肯定的評価を目指す)	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアマイスター受賞者は54名。 ・夏の高校見学会及びオープンスクールにて中学生が興味を持つ体験内容で実施。 ・成績不良者指導後、勉強会を実施したが、成績不良者(R5:37名→R6:65名)は倍増した。 	B	本校が目指している『満足度日本一の工業高校』に関連した「本校に入学できてよかった」「子供はよろこんで学校に行っている」という項目において、肯定的な回答が約8割であった。丁寧な学習指導は継続しているが、生徒の主体性を引き出し切れていないのか、成績不良者は倍増した。生徒の「主体性」を引き出すことができる授業・指導の改善を図っていきたい。	B
	各専門学科における生徒への支援体制を整える。	14	施策Ⅱ-14					
	考査・長期休暇前後の学習会の実施と個人面談の実施	8	施策Ⅱ-8					
	資格取得対策指導や合格を目指す指導内容の研修	10	施策Ⅱ-10					
進路指導	ものづくり競技への支援体制を整備する。	20	施策Ⅳ-20	① ものづくりへの興味関心の向上 (ものづくり競技大会全国大会出場を目指す) ② 卒業生の進路先(勤務先又は進学先)に対する満足度の向上 (アンケート調査による) ③ 意見交流 保護者：地区別懇談会、企業等訪問・見学会の効果的な実施 ④ 学校評価 (8割以上の肯定的評価を目指す)	<ul style="list-style-type: none"> ・手引きの活用や基礎力・SPI・就職模試、諸調査により自分の能力・適性など自己理解を深める。 ・企業・大学等の外部講師から職業について様々な説明を聞き、進路意識を高める。 ・企業見学等の体験を通し、職業に対する意識の高揚を図る。 	B	大学、企業等の外部講師としてお話を聴かせていただく場は十分に設けることができた。また企業見学等も積極的に参加し、生徒の進路先への情報提供はできていると考えている。地区別懇談会等で、普段なかなかお話しする機会のない職員と保護者が懇談する場ができ、有益な場となった。 環境を充実させようとするがあまりに、生徒の進路に対する「主体性」を引き出す指導をさらに工夫していきたい。	B
	適切な進路情報の提供と進路相談の充実	13	施策Ⅱ-13					
	企業見学、進路講話を中心とするキャリア教育の実施	8	施策Ⅱ-8					
	保護者との教育懇談や企業見学を中心とした家庭との連携	7	施策Ⅰ-7					
特別活動	挨拶運動、地域清掃活動、ボランティアへの積極的な参加	1	施策Ⅰ-1	① 地域住民の評価の向上 (文化祭等での来校者調査) ② 部活動に対する生徒の満足度、部活動の大会記録 (全国大会出場増加、全国優勝を目指す) ③ 学校評価(8割以上の肯定的評価を目指す) ④ 海外との交流実績の継続	<ul style="list-style-type: none"> ・生活委員会とMSリーダーズの活動として交通安全運動や、笠松町や笠松中学校と連携して挨拶運動をおこなった。 ・中学校への出前授業への積極的な参加と高校見学会における中学生へのおもてなし。 ・成功大学付属台南高級中等学校の来日、訪問に対するおもてなし。 	B	近隣中学校との合同挨拶運動や様々な中学校への出前授業、高校見学会における中学生へのおもてなしは、積極的に取り組めたと考えている。部活動については、研究部、個人競技の種目においては全国大会に参加することができた。しかし、運動部の団体競技において全国大会への出場が果たせていない。学校が活性化するためにも、団体種目の全国大会への参加を期待したい。	B
	生徒による中学校への出前授業や高校見学会への参加	14	施策Ⅱ-14					
	年間計画に基づく計画的な部活動の指導・運営	24	施策Ⅳ-24					
	海外の姉妹校提携している高校との交流	11	施策Ⅱ-11					
その他	地域との交流・貢献活動	4	施策Ⅰ-4	① ものづくりへの興味関心の向上 ② 学校評価(8割以上の肯定的評価を目指す)	<ul style="list-style-type: none"> ・建築工学科による「かさま〜る」、土木・建築工学科による「駄菓子屋さんinフラットおかしょく」、電子工学科による小学校への出前授業、航空機械工学科によるミニSLの運航といった各学科の特色を活かした地域貢献活動を行った。(学校評価：生徒80%、保護者73%) 	A	地域の小中学校の秋休み(キッズウィーク)期間中に行った「かさま〜る」において、ドローンの操縦法やパソコンを使った家の設計等を行うことで、地域の小学生、中学生、保護者を対象に地域の方々と交流することができた。また、こういった行事等を通して高校生としてのコミュニケーション能力を高めることにもつながったと考えている。	B

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年1月31日

学校関係者評価

実施日：令和7年2月13日

工業高校のよさを前面に生かしながら、「地域に貢献できる高校でありたい」と職員はもちろん、生徒も考えられるようになってきている。毎年同じような活動でありながらも、少しずつ改善を加え工夫して取り組んでいる。
 一方で岐阜工業高校の魅力在前面に押し出そうとすればするほど、生徒の主体性が損なわれているような気がしてならない。失敗を恐れずに挑戦する環境を整えることや生徒個人が意思決定の機会を設定する等、多様な学習方法に対して、教師がファシリテーターとしての役割を指導の一つとして導入していきたい。

・第3回学校運営協議会で、「自己評価・学校関係者評価の報告」を説明した。地域とのつながりを大切にしていると言いつつも、普段の様子もよく見ていただけていることを痛感した会議であった。地域貢献活動の時だけ頑張るのではなく、普段の生活が大切だという教育の「原点」に近い部分を、教師として忘れてはならないと感じた。「スクールミッション」についても最終確認を行った。全委員より「スクールミッション」について承認が得られた。